



コスタリカ国草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 3

2016.4.12

～学びの第一歩～

NPO 法人イフパット 研究員 小林沙羅
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

プロジェクトの活動対象集落であるサンタリタ村で、2回目のワークショップを実施しました。生活改善アプローチの導入は、参加型ツールを用いて課題発掘をしていきます。今回のワークショップでは「幸せの木 (árbol de la felicidad)」と「我が家の課題と資源 (mapeo de recursos en mi casa)」というツールを使って、生活改善を通じて達成したいビジョンと家庭における課題と資源を分析しました。参加型ツールを使うことによって、様々な課題が視覚化され、グループの中で共有されました。

「幸せの木」では幸せになるために何が必要かを、参加者同士で話し合い、掘り下げていきます。幸せになるためには、神への信仰心、仕事、家族への愛、健康、平和、自由などのキーワードが出ました。多くの参加者が母親であることから、家族への愛、家族の健康が挙がりました。生活改善はお金や物資をあげるプロジェクトではないと説明すると、お金がなければ生活は良くならないというのが通常の反応です。今までの多くの援助プロジェクトで貧困層にお金や物資が配布されてきたためです。興味深いのは、このツールを使って話し合いをすると、お金という単語が出ることはほとんどありません。お金は日々の生活の糧であり、仕事をした結果であり、目的そのものではないという気付きが起きます。この日は家族や健康、平和を通じて幸せになるために協力して生活改善を実施していくということが確認されました。

二つ目のツールとしては、参加者一人一人が自分の家と周辺を絵に描きどんな課題や資源があるかを発表し合うというものです。課題としては、「台所の床にガスボンベを置いているため赤ん坊が触りたがり危ない」、「寝室やベッドが休息を取るために適切でない」、「雨季に雨漏りがする」などが挙がり、既存資源としてはほぼ全員の参加者の家には庭がありマンゴやカシューナッツなどの木があり、鶏を飼っていることがわかりました。また、農村でありながらほとんどの家には電気と水道サービスが届いていることがわかりました。ファシリテーターチームとしては、個々の家庭レベルで課題解決経験を積み重ね、グループそして集落全体の改善に取り組む方針です。家の中や周りの状況を絵にすることで、活動の第一歩として家庭レベルで出来る改善が浮かび上がってきました。

ワークショップ実施とともに、チームでは家庭訪問も始めました。実際に家庭を訪れることで対象女性の現状をより把握すること、そして軒先で会話をする事で女性達とファシリテーターである行政官の信頼関係を築くことを目的としています。ある女性は「初めてのワークショップに参加した時は緊張して手が震えた。二回目からはリラックスして、本当に楽しかった。自分は主婦であり、家からほとんど出たことがなかった。」と語っていました。生活改善は女性達が学び合うことで自分たちの課題に気づき、自力で解決していく力をつけることを目指していると思います。嬉しそうに語る女性を見て、まずは学びの第一歩を踏み出すことが出来たのではないかと感じています。



女性たちからの積極的な発言も出るようになりました。



皆で一緒に紐で結ばれた鉛筆を瓶に入れます、楽しくチームワークを学び、発言しやすい雰囲気を作ります。



今回は参加女性の息子(4歳)も参加してくれました！



皆、楽しそうに我が家の課題と資源を描いてくれました。